



みんなで聞いてみよう：録音音声で調べる原発事故被災地の鳥の今

Yoshio MISHIMA, Keita FUKASAWA, Akira YOSHIOKA, Nao KUMADA, Akio TAKENAKA
三島啓雄 深澤圭太 吉岡明良 熊田那央 竹中明夫 (国立環境研究所)

Social Demand

立ち入り規制地域の環境変化
→元住民または近隣住民に
開示&情報共有

録音音声からの
鳥類分布データ作成イベントを
地域の鳥類愛好家の参加
のもとで実施

Open Science

無居住化地域の生物相モニタリング
データの科学的客観性の担保
情報源&作成手法の開示



PLAYERによる +1

- 野鳥の愛好家**
野鳥の鳴き声判別技術
- 開催地コーディネーター**
(福島市小鳥の森)
地域の人材紹介&発掘
会場提供&各所との調整
- 野鳥&生物系研究者**
(国立環境研/Bird Research)
サンプリングデザイン
&録音データの取得
- WEB&GEO系技術を持つ者**
(国立環境研/Code for Sapporo)
データ入出力システム
&ビジュアライゼーション

RECORDING

2014年度: 52箇所
2015年度: 57箇所

学校(廃校含む)の敷地内に機材を設置
毎年5-6月
日の出前後10分
(計20分)を録音
(MP3)

INPUT

20分間の録音データを
1分枚に切り出す

S01_20150601_01.mp3
S01_20150601_02.mp3
S02_20150601_01.mp3
S02_20150601_02.mp3

録音データをサーバに格納

OUTPUT

出現種リストが
出力される

地点, 日時, 出現種
S1, 2015/06/01, ヒヨドリ
S1, 2015/06/01, キビタキ
S1, 2015/06/01, ヤブサメ
S2, 2015/06/01, ヒヨドリ

種リストのDataPaper化

OPEN DATA

クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際
(CC BY 4.0)で公開するため準備中
(クレジットと変更点を表記すれば, 自由に加工や再配布が可能なデータ)

NEXT

2016年夏に福島県郡山市で開催予定

参加者の音声/場所の選択の自由度向上
広報の充実 → 公式websiteの設置/SNS等での発信
WEB経由での参加手段の検討

COMMENT

- ・目で見てわかる鳥でも声ではわからなかった。特に雑音が入っているのがわかりづらかった。
- ・ゲーム感覚で調査に協力できるのでおもしろかった。
- ・種類が少なすぎる。これで一定の結論を導きだすのはいかなものか？
- ・グループのコミュニケーションが大切と思う。かなりの集中力を要求される。上記のため、息抜き、休息も必要だろう。シギ、チドリ類に挑戦してみたい。
- ・調査地点が小中学校などで、人里、校庭、畑地が多い単調な環境のため種類が少なかった。ガビチョウがあちこちで出現しているのに驚いた。
- ・やり方を丁寧に説明して頂いたのと、指導者が各班について下さったので、ほぼスムーズに進行した。時間があればもっと聴いて種を同定したいくらいだった。しかし、録音を聴いても判定が難しいのが相当あったような気がする。ご指導ありがとうございました。
- ・今日はありがとうございました。聞き慣れている鳴き声も、あらためて聞くとなかなか難しいです。今回の様な企画が継続されて、福島県の野鳥の現状が広く一般の方への情報提供の場となれば良い事だと思います。
- ・調査の場の設定について。他のグループの声(音)がとても気になり、集中する事が困難であった。
- ・やはり鳥の種類が少ないと感じました。人が住まなくなり荒れているのも原因なのでしょう。とても有意義な一日でした。ありがとうございました。
- ・10秒という短い時間の中にも、沢山の情報が詰まっていると思いました。ありふれた鳥なのに他の鳥の声と重なると識別出来ないものだと思います。この調査で原発後の状況を見るのは難しいと思いました(数が不明なため)。学校の周りは比較的開けているので、出る鳥の種類が限られると思いました。